

様式第二十二

先端設備等導入計画に係る認定申請書

年 月 日

足立区長

住 所 〒120-8510 足立区中央本町〇―〇
名 称 及 び 株式会社〇〇製作所
代表者の氏名 代表取締役 〇〇 〇〇

中小企業等経営強化法第52条第1項の規定に基づき、別紙の計画について認定を受けたいので申請します。

(備考)

- 1 記名押印については、氏名を自署する場合、押印を省略することができる。
- 2 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(記載要領)

申請者は以下の要領に従って、先端設備等導入計画の必要事項を記載し、中小企業等経営強化法第52条第4項の認定要件を満たすことを示すこと。

申請者名は、共同で先端設備等導入計画を実施する場合には、当該計画の代表事業者の名称及びその代表者の氏名を記載し、代表事業者以外の先端設備等導入計画参加事業者については、申請書の余白に事業者名を記載すること。

1 名称等

正確に記載すること。ただし、法人番号については、個人事業主等、法人番号が指定されていない者は、記載不要とする。

「主たる事業」の欄には、日本標準産業分類の中分類を記載すること。

2 計画期間

3年間以上5年間以内として定めること。

3 現状認識

① 自社の事業概要

自社の事業の内容について、概要を記載すること。

② 自社の経営状況

自社の財務状況について、売上高増加率、営業利益率、労働生産性、自己資本比率その他の財務情報の数値を参考に分析し、改善すべき項目等について記載すること。

4 先端設備等導入の内容

(1) 事業の内容及び実施時期

① 具体的な取組内容

導入する先端設備等や取組内容の概要について具体的に記載すること。

② 将来の展望

①の取組を通じた将来の経営状況の展望について具体的に記載すること。

(2) 先端設備等の導入による労働生産性向上の目標

現状及び計画終了時における労働生産性の目標を記載すること。

労働生産性は、営業利益、人件費及び減価償却費の合計を、労働投入量（労働者数又は労働者数×一人当たり年間就業時間）で除したものをを用いること。

(3) 先端設備等の種類及び導入時期

① 先端設備等導入計画に基づき取得する先端設備等について記載すること。なお、先端設備等のうち、建物以外のものについては<建物以外>以下の欄に、建物については<建物>以下の欄に、それぞれ記載すること。

② 「所在地」の欄には、当該設備等が所在する（予定を含む）場所を都道府県名及び市町村（特別区を含む。）を含む住所を記載すること。

③ <建物以外>以下の欄における「設備等の種類」の欄には、機械及び装置、器具及び備品、工具、建物附属設備並びにソフトウェアの減価償却資産の種類を記載すること。

④ <建物以外>以下の欄における「設備等の種類別小計」の欄には、減価償却資産の種類ごとの小計値を記載すること。

⑤ 項目数が足りない場合は、列を追加すること。

5 先端設備等導入に必要な資金の額及びその調達方法

(1) 先端設備等導入に当たって必要な資金の額及びその使途・用途を記載すること。

(2) 同一の使途・用途であっても、複数の資金調達方法により資金を調達する場合には、資金調達方法ごとに項目を分けて記載すること。

(3) 「資金調達方法」の欄には、自己資金、融資、補助金その他の資金の調達方法を記載すること。

(4) 項目数が足りない場合は、列を追加すること。

先端設備等導入計画

< 1 名称等 > ▶ 個人事業主など
資本金を有しない場合や法人
番号が指定されていない場
合、記載不要です。

1 名称等

1	事業者の氏名又は名称	株式会社○○製作所
2	代表者名（事業者が法人の場合）	○○ ○○
3	法人番号	××××××××××××××
4	資本金又は出資の額	1,000 万円
5	常時使用する従業員の数	20 人
6	主たる業種	輸送用機械器具製造業

< 1 名称等 > ▶ 主たる業種（日本標準産業分類の中分類を記載）において、中小企業者の判定を行います。複数事業を行っている場合、売上高や付加価値額・従業員数などの経営指標の割合が最も多くの割合を占める事業を指します。

2 計画期間

令和 2 年 1 2 月～令和 5 年 1 1 月

< 2 計画期間 > ▶ 計画開始の月から起算して、① 3 年、
② 4 年、③ 5 年のいずれかの期間を設定して記載してく
ださい。

3 現状認識

① 自社の事業概要

自動車部品の製造を事業の中核としつつ、電動工具の部品など、多品種小ロットの金属製品の部品製造を行う。

② 自社の経営状況

売上は平成 2 8 年 3 月期 210,000 千円、平成 2 9 年 3 月期 225,000 千円と増加しており、営業利益についても平成 2 8 年 3 月期 1,200 千円から平成 2 9 年 3 月期 2,700 千円と増加している。要因としては、大手取引先からの受注量の増加や、熟練工を中心に歩留まり改善に向けた地道な取組みの成果によるものである。

他方で、(1)近年設備投資を行っておらず、現在の受注量を大幅に増加させることは難しいこと、(2)熟練工が定年退

< 3 現状認識 >

▶ ① 欄は、自社の事業等について記載してください。

▶ ② 欄は、売上高等の財務指標や顧客の数、主力取引先企業の推移、市場の規模やシェア、自社の強みや弱み等を記載してください。

職の時期を迎えており、適切な工程設計ができる人員が不足しているほか、長年の経験を活かした歩留まりの改善や品質の向上を図るには限界があることが、今後、当社の生産性を高め、業績を伸ばしていくうえでの課題である。

4 先端設備等導入の内容

(1) 事業の内容及び実施時期

①具体的な取組内容

- ・現在の設備は導入から年数が経っており、今後の受注増に対応できないことから、新たにNC旋盤1台を導入する。新しい設備の導入により、従来よりも高精度な加工が可能となることに加え、生産期間の短縮が見込めることから、新規取引先の開拓も含めて受注増に取り組む。
- ・受注が増え、新しい部品を製造する場合であっても品質を維持していけるよう、新たに三次元測定器を導入して熟練工以外の従業員であっても検査にばらつきが生じない体制の構築を図る。
- ・新たに導入するNC旋盤及び三次元測定器により、製造工程から検査工程を自動化することができるため、これに対応した新しい生産管理システムを導入する。

③ 将来の展望

- ・新たな設備の導入により、より多くの受注に対応できるとともに、受注できる製品の幅も広がることから、積極的な新規顧客の開拓にも取り組み、売上の増加を図る。
- ・熟練工が定年退職を迎え、貴重な経験が失われることへの対応及び人員の確保が当面の懸案であるが、三次元測定器の導入による品質管理や、製造工程と検査工程の統合による工程の短縮により、熟練工以外の従業員であっても品質のばらつきがなく、限られた人員でもより多くの受注に対応できる体制を構築することにより、大幅な生産性の向上を実現することができる。

< 4 先端設備等導入の内容 >

➤①欄は、実際に先端設備等を導入し、行う取組の内容について記載してください。

➤②欄は、先端設備等導入による効果について記載してください。

(2) 先端設備等の導入による労働生産性向上の目標

現状 (A)	計画終了時の目標 (B)	伸び率 (B - A) / A
8,000 千円	8,720 千円	9.0%

< (2) 先端設備等の導入による労働生産性向上の目標 >
 > 原則、現状 (A) は計画開始直前の決算 (実績)、計画終了時の目標 (B) は計画終了直前決算 (目標) を基に計算してください。現状 (A) について、決算一期を経ていない場合、合理的な算出方法で求めてください。伸び率は小数点第一位まで記載し、第二位は切り捨ててください。

(3) 先端設備等の種類及び導入時期

< 建物以外 >

	設備等名 / 型式	導入時期	所在地
1	NC 旋盤 / AAA-0123	令和 2 年 12 月	東京都足立区〇-〇 -〇
2	三次元測定機 / XYZ-999	令和 2 年 12 月	東京都〇〇区〇-〇 -〇
3	生産管理システム / ABC55II	令和 2 年 12 月	東京都足立区〇-〇 -〇
4		年 月	
5		年 月	

< (3) 先端設備等の種類及び導入時期 >

> 導入を予定している先端設備等をこの欄に記入します。
 > 「導入時期」欄には、設備取得予定年月日を記載してください。
 > 「所在地」欄には、当該設備の予定地 (東京都足立区・・・) を記載してください。※同じ形式の設備を複数取得する場合でも、「取得年月」や「所在地」が異なる場合には、列を分けて記載してください。
 > 「設備等の種類」欄には各設備の減価償却資産の種類を記載してください。
 > 「証明書等の文書番号等」欄には添付する工業会等の証明書の整理番号を記載してください。
 > 「設備等の種類別の小計」欄には、各設備等の種類ごとに数量、金額の小計を記載してください。

	設備等の種類	単価 (千円)	数量	金額 (千円)	証明書等の文書番号
1	機械装置	5,000	1	5,000	123456
2	器具備品	4,000	1	4,000	RW12225
3	ソフトウェア	3,000	1	3,000	AA1222
4					
5					

	設備等の種類	数量	金額 (千円)
設備等の種類別小計	機械装置	1	5,000
	器具備品	1	4,000
	ソフトウェア	1	3,000

合計	3	12,000
----	---	--------

<建物>

	導入時期	所在地	金額 (千円)
1	年 月		
2	年 月		
3	年 月		
4	年 月		
5	年 月		
合計			

5 先端設備等導入に必要な資金の額及びその調達方法

使途・用途	資金調達方法	金額 (千円)
先端設備等購入資金	融資	10,000
先端設備等購入資金	自己資金	2,000

< (5) 先端設備等導入に必要な資金の額及びその調達方法 >

➤ 「使途・用途」欄には、必要とする資金について、具体的な使途・用途を記載してください。

➤ 「資金調達方法」欄には、自己資金、融資、補助金等を記載してください。

➤ 同一の使途・用途であっても、複数の資金調達方法により資金を調達する場合は、資金調達方法ごとに項目を分けて記載してください。